

自分を守る！	▶ 初動体制の構築	社員に対する教育・啓発・訓練を行う	この取組のポイント
002	まちづくりの一環としての多分野・多世代型の防災活動		
	取組主体	従業員数	想定災害
	片平地区まちづくり会	91 名	地震等
			実施地域
			宮城県

仙台市の片平地区まちづくり会は、まちづくりの一環として防災活動の実施により、多分野・多世代を巻き込んだ防災活動を実現している。

1 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

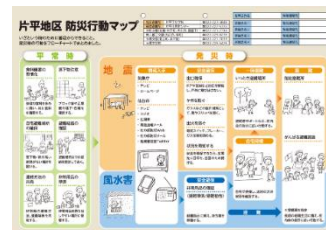
「まちづくり」で住民の関心を喚起し、町内会の枠を超えた多分野・多世代のつながりを創出

- ・ 災害に強いまちを実現するために、その地域の様々な主体が一体となって防災活動に取り組むことが重要である。
- ・ 片平地区まちづくり会は、自主防災組織に特化せず、「まちづくり」の一環として防災活動を実施することで、連合町内会、社会福祉協議会、小学校 PTA、老人クラブ連合会等、様々な分野・世代の方々が参加する組織となっている。
- ・ 同会が活動を開始する以前の片平地区では、昭和 53 年に発生した宮城県沖地震でほとんど被害がなかったこともあり、大多数の住民が防災に対して無関心であった。そこで、片平地区連合町内会が、住民に関心を持ってもらうきっかけづくりのため、地域の自然条件や土地利用の変遷、歴史等をまとめた「片平地区平成風土記」を作成することとした。編集や取材に携わった関係者は 58 人、資料提供等も含めると協力者は 230 人以上となった。
- ・ 上記の活動によって、まちづくり・防災に関係する様々な機関との連携が強化され、平成 21 年 11 月に「片平地区まちづくり準備委員会」が組織された。その後、東日本大震災の被災経験を経て、同委員会が前述の「片平地区まちづくり計画」を作成し、「片平地区まちづくり会」の立上げへとつながることとなった。

2 取組の平時における利活用の状況

外国人や子どもを巻き込んだ取組を実施

- ・ 防災まちづくりの取組として、災害発生時の避難行動フローや、避難場所・避難施設等を記載した「片平地区防災行動マップ」を全戸配布したほか、定期的な防災訓練を実施している。片平地区は外国人住民の割合が青葉区他エリアより高いという特徴があるため、マップは英語版でも作成し、訓練にも外国人住民の参加を促し、平常時からの交流の促進を図っている。
- ・ 次世代の防災人材の育成にも積極的に取り組んでおり、中学生によって構成される「片平子どもまちづくり隊」を結成し、月に 1 回自主運営企画等に関して定例会を開催している。また、「防災×宝探しゲーム」として片平地区にある豊かな自然や歴史、文化、防災資源を、宝探しゲームのようにまち歩きをしながら子どもたちに解説する取組を実施している。



片平地区防災行動マップ

3 現状の課題・今後の展開等

- ・ 「片平地区まちづくり計画」の実践に取り組み始めてから 5 年が経過し、見直しが必要な目標、新たに取り組むべき課題等を整理している。整理結果をもとに、「第 2 期片平地区まちづくり計画」を策定することとしている。
- ・ 子どもや若手人材を巻き込み、持続可能な組織として根付きつつあるが、強力なリーダーシップを発揮する人材がいない場合でも、合議制のもとに各種取組を推進していける体制作りを構築することが課題となっている。

担当者の声	地域の魅力に気が付いてもらうことで、若い人材を巻き込む ・ 災害対応や地域防災には若者の力が欠かせません。若い人たちに地域防災の担い手になってもらうためには、まずは地域の魅力に気が付いてもらうことが重要です。 ・ 本会の活動が仙台市や他都市からも評価され、先進事例として取り上げられることも多くなりました。そのことで、子どもや若手メンバーの自己有用感が高まっており、さらに活動が活発になることを期待しています。
問合せ先	片平地区まちづくり会 法人番号:- TEL 090-5834-3711 FAX 022-223-8992 E-Mail info@katahira-machizukuri.org